

平成目安箱への回答 No.11 障がい福祉コーナー常設のお願いについて

担当主管課：福祉課障がい福祉係（内線 354）

要望等内容	回答
<p>私たちは、平成13年より大磯町ふれあい会館1階で障がい者（主に知的障がい者）の就労支援を目的とした福祉ショップを運営しているボランティアグループです。</p> <p>福祉ショップの主旨は①障がい者の就労体験（犯罪、金銭精算、陳列などの仕事を覚えさせます）②障がい者製作の商品の紹介（手作り作品や手作りパンなどの販売）③地域社会との相互理解（地域の一般健常者の方々とふれあいをもちコミュニケーション能力を高め、地域住民の方に障がいを知ってもらい、ボランティアとして参加していただく）です。</p> <p>福祉ショップは、当初大磯町にある福祉事業所や障がい者の親の会が各自資金を出資して、障がい者のための福祉ショップを大磯町に作っていただくよう行政に陳情し続けた結果、今のふれあい会館の一部（倉庫）を提供され現在に至っています。その間、大磯町役場内にて福祉ショップのコーナーを設置していただく旨お願いしてきましたが、実現には至っていません。さらに、障がい福祉課よりふれあい会館の使用も目的外使用の範囲を超えているという理由で、他の場所での活動を指導されてきました。</p> <p>先日、大磯町内の空き家の資料をいただき検討しましたが、資金面や集客力を考慮すると適する空き家はありませんでした。また、横溝記念館でのショップ案もいただきましたが、障がい福祉施設の中でショップを行っても地域の方々と交流は望めず、かつての措置制度と同じく障がい者を障がい施設の中に閉じ込めることと同様に思え、お断りしています。現在のふれあい会館での活動は長く、集会に訪れる方々が、当ショップの商品を楽しむにいらっしゃること、障がい者とお客様が顔見知りになり上手に接することができることなど、現状から考えると今の場所で運営を続けることが望ましく、継続して運営させていただくことを希望しています。障がいのある方にとって、地域の方々の支援は必要不可欠です。その一端を担う場所として、認めて頂けることをお願いいたします。</p> <p>近年、各地方自治体での障がい者支援の活動は活発であり、平塚市においても本年4月から庁舎ロビーに福祉ショップが開設されました。大磯町も障がい福祉に明るい町として、行政主導の福祉ショップの設置は、将来の町行政展望に無くてはならないものだと確信しています。観光に力を注ぐならば、当然、障がい者の観光客にもやさしい町づくりが不可欠であり、大切な税金を投入するに値する事業だと確信しています。</p> <p>現在のふれあい会館の一室を障がい福祉に関するコーナーとして条例を変更していただき、ふれあい会館利用者さんにとっても楽しいコーナーになればと思います。平塚やまびこ会さんは自閉症児・者親の会の方々と、現在、平塚市西部福祉会館の1階にショップを開いております。玄関ロビー横にキッチン付きのスペースを提供され、喫茶を自閉症児と関係者の方で運営しています。経費は無償です。是非とも、大磯町にも障がい福祉に必要な場所を常設していただければ幸いですよう、ご尽力いただきたくここにお願い申し上げます。</p>	<p>町政につきましては日頃より御理解、御協力いただきありがとうございます。</p> <p>「福祉ショップ」につきましては、障がい者の就労機会の拡大や生産・販売意欲の向上、さらには地域住民との触れ合いを目的としており、本町としましても、重要な障がい福祉施策の一つと認識しています。</p> <p>現在は、大磯町立ふれあい会館にて開設されていますが、ふれあい会館は、使用目的をB型老人福祉センター及び地域集会所と条例で定めており、目的以外の使用となる「福祉ショップ」の開設は、条件等を付した中で使用いただいている状況にあります。</p> <p>そのため「福祉ショップ」の今後の運営等については、運営委員の方々と様々な協議などを重ねさせていただいているところですが、限られた公共施設の中、御希望に沿う立地条件や常設の設置スペースが無い状況にあることをご理解いただければと思います。</p> <p>また、既にご提案等もさせていただいております「障害福祉センター」を当面の活動場所としてご利用いただきたいと考えており、引き続き「福祉ショップ」の運営につきまして協議などを進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>

目安箱受付日：H26. 9. 22

掲示日：H26. 10. 21